



学校だより 2月号

令和6年1月26日

かさま

No.512 横浜市立笠間小学校

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kasama/>

【学校教育目標】かがやくひとみ さわやかえがお まごころいっぱい かさまの子

偏見やいじめのない世界に

副校長 谷田部 康代

1月の授業参観には、多くの方においでいただきありがとうございました。

皆さんは「ピンクシャツデー」を知っていますか。

物語の始まりはカナダ。ある中学校で男子生徒がピンクのシャツを着て登校したところ、同級生にからかわれ、いじめにあいました。それを知った2人の上級生が「ほくらはピンクのシャツを着ていじめストップを！」と提案しました。その日の放課後、2人はディスカウントストアへ行き、大量のピンク色のシャツやタンクトップを買い込みました。そしてその夜、学校の掲示板やメール等を通じてクラスメイトたちに呼びかけました。

翌朝、2人はピンク色のシャツやタンクトップを入れた袋を手に登校し、校門で配りはじめようとしたところ、驚く光景を目にします。それは、ピンクのシャツを着た生徒たちが次々と登校してくる姿でした。ピンクのシャツが用意できなかった生徒たちは、リストバンドやリボンなどピンク色の小物を身に付けて登校してきました。2人が呼びかけた人数よりはるかに多く、数百人もの生徒たちがピンク色の物を身に付けて登校してきたことで、その日学校中がピンク色に染まったそうです。それ以来、その生徒に対するいじめがストップしました。エピソードを州知事が知り、2月最終水曜日を「ピンクシャツデー」とし、今では世界180か国以上のワールドアクションとなっているようです。そして、2月は「ピンクシャツデー月間」ということです。



さて、この話を聞いて皆さんはどうお感じになりましたか。私は、2人の上級生の行動力とその思いに応えた多くの生徒たちに驚くとともに、この出来事はいつのことなのだろうと少し違和感を覚えました。というのは、笠間小学校に入学してくるお子さんのランドセルは色とりどりで、男女ともに黒や濃紺、紫を選ぶ児童が多いです。ピンクのシャツを着ていた男子生徒がからかわれることが最近でもあるのだろうか。調べてみたところ、この物語は2007年の出来事だったようです。私の娘が小学生だった頃ですので、思い起こしたところ、確かにランドセルは男子が黒、女子は赤がほとんどだった気がします。

時代は変わっていますが、今でも決めつけや偏見は身の回りに残っています。性別の偏見だけでなく、若者はICT機器に詳しいはず・・とか外国人だから英語が話せるはず・・というのもそうかもしれません。私も残念ながら偏見を感じる場合があります。例えば、「女の子だから顔に傷が残るけがになると心配。」とか「男の子なのに家の手伝いをよくするなんて偉い。」という発言を聞くことがあります。自分も長い教師生活でそのような偏見をもったことがないとは言えません。「男だから～、女だから～、〇〇だから～」という固定観念から脱却し、多様性を尊重する姿勢が子どもたちを見守る大人として求められています。そして、子どもが気になる発言をした時には「それは偏見だと思うよ。」「それは、違うよ。」と指導できるように、自分の中にある偏見や差別をなくしていけるように努力したいです。

自分の中にある偏見や差別を見つめ直す、そんな日に「ピンクシャツデー」がなったらいいと思います。笠間小学校では、保健室前にピンクシャツデーオリジナルTシャツが飾られています。